



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No.32 2005.4.6 (No.2359)

第2560地区ガバナー / 横山 芳郎  
 会 長 / 渡邊 喜彦  
 会長エレクト / 小越 憲泰(クラブ奉仕A)  
 副 会 長 / 渡辺 勝利(クラブ奉仕B)  
 幹 事 / 五十嵐 寿一  
 S A A / 船越 正夫  
 会 計 / 荻根澤 隆雄

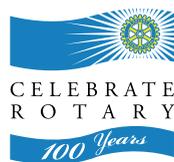
例会日 / 毎週水曜日 12:30 ~  
 例会場及び事務局 /  
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内  
 例会場 / TEL 34-3311  
 事務局 / TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-ss@web-niigata.ne.jp  
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/  
 (~はshiftを押しながら“へ”のキーを  
 押ししてください)

本日の出席会員数: 65名中52名  
 先々週出席率: 84.62%

【ヴィジター】

・三條北より 笹原壮玄さん



「ロータリーを祝おう 100年の歩み」  
 2004~2005年度国際ロータリーのテーマ



アンズリム

## 会 長 挨拶

渡邊喜彦 会長



みなさんこんにちは。今日の卓話は会員の中村さんです。後ほどよろしくお願ひ致します。また、三條北クラブより笹原さん、ようこそおいでくださいました。どうぞゆっくり御くつろぎください。

先日4日の月曜日、当会の会員でした渋谷正一さんの葬儀に参列しお悔やみにいってまいりました。渋谷さんは、享年63歳という若さで当クラブと致しましても非

常に惜しい人材であり、あまりの突然の死に大変驚いております。お聞きすれば、数年前より体調が良くなり検査入院という事で病院に行かれ、そのまま帰らぬ人となられたとの事でした。肝臓がんであったとお聞きしております。改めて心よりご冥福をお祈り申し上げる次第です。

さて、本日は、もう一つ大変残念な報告を申し上げねばなりません。それは、すでに皆様方も新聞でご承知の事と思いますが、当クラブの会員であり、本年度のアシスタント・ガバナーでもあります細井増雄会員の事です。先月末日をもって会社倒産という状況になり、その後私のところに一回も連絡が入っておりません。

皆さんは逆境に陥った事が沢山あるかと思ひます。先人の方で新渡戸稲造さんがいらっしゃいます。新渡戸さんは武士道を世界に広めた方ですが、新渡戸稲造さんが沢山書かれた本のなかで、修養という本があります。これは人間にとって修養ということが非常に大切なことであると謳っているのですが、その中で決心の継続ですとか、逆境に対する心得を書かれています。「人は逆境に陥るとかく冷静に考えることを失い、ただ、困った困ったといってやけになる。中にはこれを勇み肌とかいって喜んでおるものもいる。僕はこれは人物の才が低いため前方が見えぬものと信ずる。少しつま先立って前方を眺めれば人間も生きる間に一条の光明が前途に輝き、

希望の光が見えるものである。」私には難しい文章なのですが、つまり、我々人間はいろいろな体験を積んでまいります。その少ない経験、体験での目線で人間は物事を見たり考えたりするのであると言われてます。人間はやはり努力し、修養を積みれば大きく成長し、目線が高くなり、広く深く物事を見るようになる。つまり、努力すれば見えないものも見えてくるのだと言っているのだと思います。「しかるにだんていな人は一時の暗黒に惑わされ、すぐに前途はどこまでも闇なりと即断し、遠く前方に輝ける光を見損ない希望を認めることができずにやけになることが多い。」と書かれております。やはり我々は色々な体験を積み逆境に遭遇しますが、その逆境から自分自身が何を学び取るかということが大事な事だと思うんですね。逆境に陥ったならばその理由を自分に求めて逆境に至った理由を思い求めて、客観的に見ていけば色々見えてきて、そんな中から自分を磨き高めていけば逆境は全てプラスになると思います。逆境対処の心得も書かれています。一番に「逆境の時は退いて冷静に思慮せよ。」うまくいかない時はむやみやたらに前進せずに、一旦原点に戻ってもう一回冷静に状況を見極めて、改めて取り組んでいくことが大事であるということだと思っております。2番目に「逆境を全容せよ。逆境に陥ったならば、逆境そのものを全容して我が精神の修養に供するが良い。」と新渡戸稲造さんは述べられています。順調に行くときよりもむしろうまくいかない時の方が自分にとってはおおいにプラスになることが多いわけですから、その時の体験をおおいに生かすことが大事ではないかなと思います。

なかなか厳しい経済環境が続いておりますが、この環境をおおいに修養し、われわれは次に生かしていくべく努力していかなければならないのではないのでしょうか。

## 幹事報告

五十嵐寿一幹事

ロータリー米山記念奨学会より  
功労クラブ表彰のご案内がとどいております。  
2005年3月現在 23回目功労。

## ニコニコBOX

野水文治さん

入会48年になりました。

藤田説量さん

一寸、好いことがありましたので。

五十嵐昭一さん

ようやく、待ちに待った桜の咲く気候になりました。  
今夏の順調な気象に期待したいと思います。

松谷呉吉さん

田島橋上空にもうイワツバメが飛んでいました。  
春ですね。

会田二郎さん

やっと暖かくなりました。

山田富義さん

昨年4月7日(水)は、高田公園の桜、満開でした。  
今年は17日頃が見頃だそうです。渋谷正一会員の  
スナップ写真、イッパイあります。ありがとうございました。

明田川賢一さん

山本さんの閑牛メモ読ませていただきました。

大変おもしろかったです。

渋谷正一さんのご冥福をお祈りします。

藤田紘一さん

渋谷正一会員の突然の悲報に、ただ驚くばかりで  
ありました。

中村和彦さん

卓話させていただきます。よろしく願います。

石塚欣司さん

中村さんの卓話、楽しみにしております。

船越正夫さん

中村さん、卓話ご苦労様です。

石月良典さん

中村さん、おつかれさまです。残念ながら早退さ  
せていただきます。申し訳ありません。

石橋育於さん

都合により早退させていただきます。中村さんの  
卓話残念です。

松永一義さん

渋谷正一さんのご冥福をお祈りします。

小越憲泰さん

都合により早退します。

早川昭雄さん

渋谷正一さんのご冥福をお祈りします。都合によ  
り早退させていただきます。

4月6日分 ￥ 22,000  
今年度累計 ￥ 842,000

## ロータリー財団

藤田説量さん

孫が大学に入りました。

早川昭雄さん

孫息子が小学校に入学しました。

五十嵐晋三さん

内孫と外孫が小学校へ入学しました。

4月6日分 ￥ 13,000  
今年度累計 ￥ 75,000

## 卓 話

### 「雑誌月間にちなんで」

雑誌委員長 中村和彦会員



4月は雑誌月間です。本日お手元に配布の『ロータリーの友』4月号の表紙に、- 特集雑誌月間 世界に開かれた情報の窓 - Rotary World Magazine Pressと記載されて、雑誌月間にちなんだ特集記事が10ページから18ページまで掲載されています。

まず最初に10ページをお開き下さい。ここには2ページにわたって31ヶ国のロータリーの雑誌が、表紙の写真とともに紹介されていますのでご覧下さい。月間での発行部数の対比で多い国の上位5ヶ国を探してみました。第1位はアメリカの50万部、第2位は日本の11万5千部、第3位はブラジルの5万8千部、第4位はインドの5万4千7百部、第5位はドイツの4万3千部でした。年間で一番少数の国はイスラエルです。季刊発行で各千部ですから、年間で4千部ということになります。

これらの雑誌の共通しますことは、その発行地域のロータリークラブやロータリアンの活動を紹介して「各クラブが啓発しあう」情報源になっています。また、ロータリーの公式雑誌として『THE ROTARIAN』という月刊誌が国際ロータリーから発行されておりますが、この中から指定されている記事を、各国で発行されますロータリー雑誌にその国の言葉に翻訳して掲載することが義務づけられています。

次の12ページ、13ページは、インドの『ロータリーニュース』の編集長クリスナン・チャリ氏とフランスの『ル ロータリアン』の編集長クリスフ・クージョン氏が、それぞれ発行のロータリー雑誌の特徴を書いてPRをしています。インドの『ロータリーニュース』は、ロータリーの世界で必要なロータリー情報を資料提供したり、ロータリーの情報を知りたい人への情報の図書館、ARCHIVE(アーカイブ/保管)を目的に刊行しています。

また、フランスの『ル ロータリアン』は、フランスの多くのロータリアンがアマチュア作家であることから小説や詩、文学や歴史、金融、科学、絵画など多岐にわたって、短い書評を毎号、50パーセントも割いて載せています。このコラム欄の目的は、それらの本の販売促進のためだそうです。年を追うごとに、この欄は人気が出て、おかげで本が売れてきたようです。自信をもって『ル ロータリアン』が、喜んで読まれていると紹介しています。

次の14ページ、15ページには、『THE ROTARIAN』の4月号からで、RIの指定記事の翻訳ですが、「印刷された言葉の価値を見直そう」と題して、ロバート・アイケン氏がロータリーの100周年で、ワールド・マガジン・プレスの直面の課題は、「新しい100年間の超私の奉仕を確かなものにするため、すべてのロータリアンたちの考え方や活動を効果的に刺激するこ

とです。」と書いていますが、電子メール、インターネット、電子会議などが、ロータリーの組織をややめすると傷付けるのではないかと危惧もしているようです。

次の16ページ、18ページは、「ロータリー・ワールド・マガジン・プレスの歴史」と題して、『THE ROTARIAN』の現状と歴史に触れています。1911年1月にRI初代事務総長のチェスリーR・ペリーによって、最初は『THE NATIONAL ROTARIAN』の名称で創刊されました。創刊号の中でペリー事務総長とポール・ハリスは「すべてのロータリークラブだけではなく、すべてのロータリアンへ」メッセージを伝える手段として創刊したものでした。現在では、RIの公式雑誌『THE ROTARIAN』は、イリノイ州のエバンストンで50万部発行されています。また、世界各国で31の地域雑誌が23か国語で発行され、130か国の人々に読まれ、76万6千部の総数が発行されています。『THE ROTARIAN』と31の地域雑誌を総称して「ロータリー・ワールド・マガジン・プレス」と呼んでいます。

次に『ロータリーの友』は、ご承知のように2部構成になっております。表紙の左開きの活字は横組みで50ページくらい、表紙右開きの活字は縦組みで30ページくらいとなっています。

以上ですが、皆様も家に帰られて、もう一度「ロータリーの友」を読んでみて下さい。



次週例会 4月20日 会員卓話 佐藤文彦会員

---

次々週例会 4月27日 会員卓話 並木富士雄会員

